

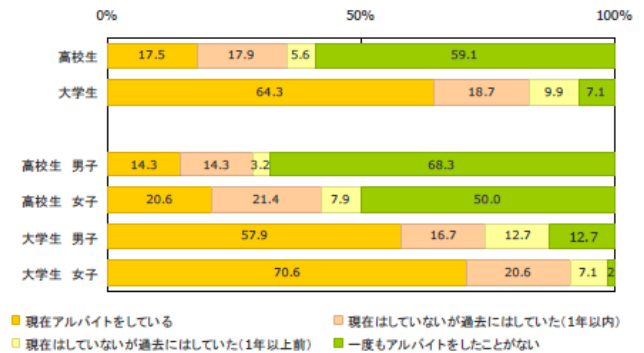
アルバイトが高校生に及ぼす悪影響！？

生体分子工学専攻 11613007 北川 雄一

近年、校則でアルバイトを禁止しているにも関わらず、学業の傍らで高校生がアルバイトをしているケースも珍しくない。高校生に「今までにアルバイトをしたことがあるか？」と聞いたところ、約40%がアルバイトの経験があるとのことである（右図参照）。ちなみに業種としては、男子高校生がスーパー、ディスカウントショップの店員、女子高校生が飲食店の店員が最も多かった。もちろん、家庭の事情でアルバイトせざるを得ないケースも存在するだろう。しかし、高校生のアルバイトに関しては根強く賛否両論の意見が飛び交う。「学生のうちから社会体験をすることは重要」という賛成意見に対して「高校生は学業に専念すべきだ」という反対意見がぶつかるのである。

そのような議論の中、アルバイトをすることが高校生にとってマイナスであることを支持するデータが得られた(1)。それは、「全国の都道府県警察の少年部門に非行が原因で検挙された高校2年生のアルバイト就労率が一般の高校2年生と比較して、極めて高い」というものである。ここで言う非行とは、万引き、占有離脱物横領、オートバイ、自転車盗み、障害のことを指す。以下でその結果の詳細について述べていく。非行を起こした高校生と一般の高校生を対象にアンケートをとったところ、休業中（春休み、夏休み）にアルバイトをしていた人の割合は一般男子が31.6%、女子が37.5%で、非行男子が59.4%、女子が63.8%であった。また、学業期間中になると、一般男子・女子に関してはアルバイトをする人の割合が減少するのに対し、非行男子・女子ではそのような傾向は見られにくいことも判明した。更に、アルバイトの有無以外の指標（①進学への意識、②部活の有無）でもアンケートをとって見たところ、「大学までの進学を考えている」と答えた学生の割合は一般男子で41.7%、女子で35.9%で、非行男子が24.9%、女子が13.0%となった。特に非行女子での低い数値が目立つように思える。また、「部活をしている」と答えた学生の割合は一般男子が55.6%、女子が51.7%で、非行男子が35.3%、女子が25.0%となった。これは放課後の時間を部活に費やすことで当然アルバイトをする機会も減るため、矛盾のない結果と言えるであろう。以上の結果をそのまま受け止めると、「高い意識で学業にも部活にも励み、アルバイトをしていない学生の方が非行を起こしにくい」という、一見当たり前のことのように思える。では、「なぜ、アルバイトをしている学生が非行を起こしやすいのか」について考察していきたい。アルバイトと非行の関連性を考える上で“2つのパターン”があると思う。まず、1つ目としては、「アルバイトがきっかけで非行に走るパターン」である。つまり、アルバイト先で学校の友人とは異なる年上の人と接触することで、喫煙や飲酒といった非学校的な遊びを教わり、非行を起こすことに発展する可能性があるということである。2つ目としては、「非行からアルバイトを始めるパターン」である。非行学生は一般学生よりお金を必要とするケースが多い。携帯電話代、カラオケ代、その他の仲間との付き合いのための出費が嵩むからである。そのお金を稼ぐためにアルバイトを始めるというものである。

どちらのパターンであろうと、高校生のアルバイトにはやはり危険性が潜んでいるように思える。しかし、周囲の人が正しい意識を持って高校生に接してやることで解決できるのではないかと思う。そして、高校生のアルバイトがむしろ学生にとって有意義なものとなる時代が来ることを期待する。無論、第一に学業を優先してほしいが・・・



【引用文献】

(1) Yamamoto I, JAPANESE JOURNAL OF SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY 30, 138-150 (2005).

【参考文献】

樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・荻谷剛彦, 「高校生文化と進路形成の変容」, 学事出版, 2000

小浜逸郎, 「正しい大人化計画」, 筑摩書房, 2004